

山猫圖說

8

洋学文庫
文庫8
J65



山猫圖說

虎の子と云ふ真相は如何に山猫と云ふは
 昔々西洋書に味は虎と云ふ山猫野猫又豹猫
 物有る者多し然れども一物に云ふは虎の子
 云々其書に云ふは虎の子と云ふは虎の子
 中世の書に云ふは虎の子と云ふは虎の子

二月廿日

横田筑



今歳三月下旬人アリテ筑前一箇ノ活獸ヲ將來リ觀場ヲ
 開キテ呼ニ虎子ヲ以テセルモノミ寫真ヲ一看シ且ソノ附
 考ニ通テ讀過スルニ俱ニ記スコレ虎子ニアラス奥州ハン
 ダイ山中ノ産スルトコロノ山猫ナルヘシト余カ意亦也相
 同シ豈別ニ喙ヲ開クヲ勞センヤ究竟ソノ帛トイフモノ
 ハ觀ヲ奇ニセンカ為ナルヘシモシヨクソノ將來リシ人ニ
 對シテ果メ虎穴ニ入りテ獲來リシヤ不ヲ以テ仔細ニ由テ
 未ルトコロヲ詰叩セハ即便チソノ審ヲ告クヘキナリ附考
 ノ一二云毛色形狀西書「ヨニストンス」ニ載スル小帛トイ
 ヘルモノニ似タリト宜クソノ説ヲ讀テ之ヲ詳ニスヘシ余

一今年三月下旬宛前
 二見七物ニ持来ル帝子
 生寫ナリ紫スルニ真虎
 子ニアラス又世ニ謂山猫
 ニモアラスヨニストニスニ小
 席ト云獸アリ其毛色形
 狀能似タリ又奥州ハンダ
 イ山ニ山猫ヲ産スト聞ク
 此物ト同ニカラシカ

山猫苗 桂嶼縮臨



虎ノ子生寫相見
 如考奥州ハンダ
 山子コト云々
 此物ト同ニカラシカ



本苗
 自左耳尖至右足端九寸二分
 自右額角至尾能一尺二寸
 自左足底至項八寸二分
 尾長六寸二分
 自頂鼻至額三寸五分

原曰八丈島人會シテ山猫ヲ向ケルニ今時ハサルモ他トシテ家猫ニ歸スルハ卷卷々々モモイ故ニ鼠珠多シ但島俗婦人ハ鏡ノ陰及其前後トモ猫トイフヲ林ホス何故

モル座右ノ西洋書ヲ緒メソノ苗說ヲ索ムルニ諸又利亞國刊スルトコロノ三才苗譜ニ載ルトコロノカ左スハルニスナルモノ今看ルトコロノ寫真ト全ク類似スタミソノ說ヲ逸ス幸ニエグベルトボイス人名カ撰マタソノ苗說ノ略ヲ收ム故ニソノ說ヲ譯メ之ヲ補ヒ更ニ士庶必用暨學寶函物類精理論ノ說ヲ抄メ之ニ添フソノ野ト云ヒ山トイフ皆コレ一物ナルヘシ嘗テ聞ク八丈島中ニ一種ノ猫ヲ産スソノ性野ニメ人ニ馴レス常ニ林樾ニアリ夜ニ乘メ人家ヲ窺ヒヤコモスレハ孩兒及衰年卧病ノ人ヲ啖フトコレ亦同物ナラシカ各方ノ産スルトコロ形状ノ大小毛色ノ差異ハ土地

ナルヲ知ラスト名又屋野ノカニ隨テ設ケ造ルヲヨシイリ又妍方子ヨリ左ノ如ク書キ贈リ

風氣ノ然ラシムルトコロナルヘシ

丙戌夏五月念三日

桂桂興識

古河古松軒カハ文章花云此鳥獸類ノ鼠ノ外ハ牛馬ヲ初トシテ絶テ生セス鼠ハオヒクハ島人モ制シ得サレハ地方ヨリ年々猫ヲ買ヒテテ今ハヨホト有レドモ五七匹ニ止ル猫ノ遊クハ三河尾ノ意ト聞ケリト此文ニテ考レテ家猫ハ無キ島ナリトモ産家ノ洗アラハ山猫ニテハハツカヌナルヘシ

「ボイス」人名カ學藝全書ニ曰クベルグカト山猫ハ羅甸ニ之ヲカ左スハルニスカ左スハ猫ナリハルニスハ豹ナリ即チ豹ナリト云即チ猫ノ一類ニメ大サ九ノ狗ノ如ク背上ニハ黒斑數條アリ脇ト腹ニハ黒色ノ斑点アリ士庶必用ニ曰ク猫ハ家野ノ二種ヲ分ツ野猫ハ暴厲殘刻ナル惡獸ナリ諸鳥ノ樹上ニ巢フモノ此獸多クハ獵ス又ヘルドフーンドルス鷓鴣竹雞鶴鶉及其外水陸諸鳥ニ大禍害ヲナス生レ得テソノ體軀頗ル家猫ヨリ巨ニメ淺藕合色子ジ

ミイロニ淡褐ニメ黒斑アリソノ尾ハ毛ヲ生スルヲ殊ニ密
 ヲ帶ルヲ云ニメ大ナリ此獸ソノ子ヲ大樹幹ノ孔中ニ於テ育養シ二年
 ヲ経テ全ク成長スコノ獸ヲ捕ルニハ^{ワトナ}孫蹄ヲソノ窟前ニ設
 ケテ之ヲ得ヘク又鳥銃ヲ以テスヘシソノ皮ヲ剥キテ以テ
 皮革ヲ製スルニ供スモシソノ銃ヲ以テ撞殺セハ更ニ宜ク
 桿棒ヲ以テ之ヲ打倒スヘシコレ此獸銃ニヨリテ死ストイ
 ヘルアヘテ横倒セス居ナカラニ死メ人ノ之ニ觸ルニマテ
 ハソノ形態ヲ變セサルニヨリテナリ
 「^{ノ義}オイルケンス」名カ物類精選ニ曰ク^{ノ義}犀ルテカツト野猫ハ^{エウロ}歐羅
 バノ諸國ニ産シ殊ニ^{ノ義}亞細亞界ニ於テ多シ家猫ニ比スレハ

カラスハルジス苗 諸義利亞國ニ才苗譜可載

去^{ケイ}決^イ私^イカ^イ地^イ志^イニ云
 錫蘭島^第三^卷三
 百^四十^一号
 ノ獸^類ハ^象ヲ以テ
 最^ト又^ト番^牛野^猪
 野^猫ヲ産ス^ト云^ニ



其形大ニメソノ色浅藕合常ニ林中ニ在リテ兎諸禽及ソノ
他ノ活物ヲ追ヒ襲テ食トナス家猫ト其性甚ク差異ナリ
「ドイツ名カ醫學寶函ニ曰ク宰ルテカト羅甸ニ之ヲカカ五ス
セイルヘストリス六野猫ト云ソノ脂ハ疝痛ヲ治スルニ奇
功アル藥トス即チコレヲ温タメテ臍ニ塗ルヘシ兼テ癩癩
卒倒及支節衰弱ノ機カラ失シ不遂スルヲ恢復ス

附記

磐梯山陸奥出羽州中ノ山ニメ獸類ヲ産スルコト尤多キ中山猫ヲ出スト聞
クコト久シ今附考ヲ讀テイヨクソノ實ヲ領ス余業已ニ本説ヲ書シ了ル時ニ
於テタマク若松ノ醫生ノ過訪スルアリヨクテ質スルニ磐梯山形勢物産等

ヲ以テス曰ク此山我カ會津ノ封内ニ在リテ蟠根稻苗イハハシロコナカ代米澤及ク餘ノ諸地及ク
高低馬海山六出羽ニ在リテ由
理郡中ニ屬スニ下ラスソノ産スルトコロ硫黄礬石取多ク山巔時
有テ煙ヲ噴キ鳴動スルコトアリ山獸極テ多ク山猫アリソノ大サ犬ノ如ク大ム子
長サ三尺許ソノ老成ノモノ更ニ巨ニテ猙獰多カ吼声林木ニ震フ獵戸或深
ク山中ニ入りテ虎ヲ見シコトヲ語ルモノアリ意フニ亦此モノニ老タルナルシト乃
チ更ニソノ産處ノ明カナルヲ知り且ツ席子ト呼フノ由ヲ審シ併ヒテソノ疑惑
ヲ解クニ堪タリ然レハ山猫ヲ産スル必スモ此山ニ止ルヘカラサレハアルヒハ
之ヲ他州ニ得タルモマタイマタ知ルヘカラス
又按スルニ歐邏巴ノ北瑠ニ一種ノ野獸「レイシタスト稱スル
モノヲ産シソノ形ト性トトモニヨク山猫ニ似タリト聞ク蓋シマタ一族ナルヘシ

ヨツテ今マク西書ニ就テソノ苗ヲ摹シテ説ヲ畧抄メ本説ニ附記スソ
ノ詳説ノ如キハ他日ノ蒐獵ヲ期スト云

五月廿五日

桂嶼又識

「レ」メレイ名カド「ロ」ゲレイ名書ニ曰ク「レ」インクス羅甸
一ニ之ヲレ「レ」名カド「ロ」ゲレイ名書ニ曰ク「レ」インクス羅甸
ト呼ヒ和蘭ニテ「レ」名カド「ロ」ゲレイ名書ニ曰ク「レ」インクス羅甸
ナルモノニ等シク大抵長サ三尺ハカリ形状猫ト獅トニ似
タリ其性兇暴ソノ面猙獰ニメ勇悍頭ト耳トハ小ニメ其狀
自ラ三隅ヲナシソノ色トモニ黒クメ頭上列ニ黒色ノ毛ヲ
蒙ル「レ」鬃ノ如シ兩眼ハ閃爍トメ火光ノコトクソノ視ル「レ」

極メテ靈明ナル「レ」名カド「ロ」ゲレイ名書ニ曰ク「レ」インクス羅甸
牙ヲ列生シソノ舌ハ澁刺アル「レ」猫獅ニ異ナラス吻上ノ白
鬚亦猫ノ如シ全體ノ毛軟柔ナル「レ」毳ノ如ク白色ニメ黒駁
アリソノ尾ハ短ク四足ニハ毛ヲ生スル「レ」殊ニ密ナリ前足
ハ五指後足ハ四指アリ共ニ鈎爪ヲ具スル「レ」鷗鷺ノ爪ノコ
トク光澤アリテ甚夕剛利ナリ此獸莫斯モス齒未亞コボ「レ」
「ホ」ロニ「ア」ト「パ」ロス「レ」名カド「ロ」ゲレイ名書ニ曰ク「レ」インクス羅甸
「イ」スノ間ニアリ雪際ス亞ス及亞墨利加リカノ諸國ノ林麓ノ間及曠
荒ノ去處ニ棲宅ス性只鹿ト親ムノミニメ他ノ獸ニ於テハ
逢ニ隨テ即チ之ヲ殺シ以テ貪食ヲ事トスル「レ」狼ト相似タ
リソノ獲ルトコロノモノ必コレヲ頭上ニ戴ヒテ行ク且ソ

ノ諸獸ヲ擒獲スルニアタリテハ行走殊ニ迅疾ニメ飛カ如クナル[「]野猫ニ全シ野猫モ亦間此獸ニ殺死セ[」]レインクス獸圖 三才圖會所載



ラル此獸性油氣塩氣多シ脂肪ハ凝結ヲ和解シ且神經及諸

骨節ヲ強健ニスルノ功アリ爪ハ神經ノ牽掣ヲ復スルニコレヲソノ身ニ帶レハ即チ功アリト稱シ尤右足ノ大指ノモノヲ勝レリトスシカレ[「]果メ的切ナル功ヲ奏スト云カタ[」]シ故ニ深く信用スヘカラス此獸ノ[「]レインクスノ名ハ[」]ハ[「]五[」]ニ等シキニヨリテナリソノ形狀ノ似タルニハアラス又[「]五[」]ト合称スルモノハソノ暴戾貪食ノ性ハ狼ニ似テ翻テ鹿ヲ以テ友トナスニヨリテナ[「]リ[」]ウイツ曰ク[「]レインクスハ和蘭ニテモ[」]レインクスト呼ビ又

「テイゲルワルフ」ノ義トモ云此獸ノ脂ト爪トハ藥肆常ニ欠
カス即チソノ脂ハ支節脱臼麻痺癱瘓ヲ治シ爪ハ附接スル
ニ銀ヲ以テシ之ヲ頸ニ掛クレハヨク癩癧瘡癩ヲ治ス

按スルニソノ脂ハ功無シトイフヘカラス爪ニ至リテハ「レーメイ」
ノ云トコロノ如クナルヘシ蓋シ西洋ノ舊法令時ニ至リテハ藥舖ニ
ソノ爪ヲ貯ヘテ用ヲ待ツモノオソラクハコレアルヲ無ラシ昔時ハ西洋
マク如此ノ弊多シ



山猫尾をその毛を相見存存物と詳細にその功効服法
斗和後より各名を精究するにその功効此類年々
少老尾一尾と承蓋尾一部と編集するに其功効
暇摘芳即ちその功効を編集するに三十卷中其功効
少くも其功効の中編一にその功効を編集するに其功効

桂川家藏
日清生薬
自製



